

平成30年度
事業報告書



Meitoku
since 1925

学校法人千葉明德学園

目 次

I 法人の概要	1
1. 法人の名称	1
2. 事業所の所在地	1
3. 設置する学校	1
4. 附帯事業	1
5. 姉妹法人	1
6. 学生・生徒・園児の数	1
7. 役員	2
8. 教職員の状況	2
9. 土地建物の状況	3
II 事業の概要	3
1. 学園全体の状況	3
2. 千葉明德短期大学	4
3. 千葉明德高等学校	6
4. 千葉明德中学校	10
5. 千葉明德短期大学附属幼稚園	11
6. 明德本八幡駅保育園	13
7. 明德浜野駅保育園	15
8. 明德やちまた子ども園	16
III 財務の概要	18
1. 事業活動収支の推移	18
2. 施設設備への投資額の推移	19
3. 借入金の推移	19

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人千葉明德学園
2. 事務所の所在地 千葉県千葉市中央区南生実町1412番地
3. 設置する学校
- (1) 千葉明德短期大学保育創造学科
- (2) 千葉明德中学校
- (3) 千葉明德高等学校 全日制課程普通科
- (4) 認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園
- (5) 明德やちまたこども園
4. 附帯事業
- (1) 明德本八幡駅保育園（第二種社会福祉事業）
- (2) 明德浜野駅保育園（第二種社会福祉事業）
5. 姉妹法人 社会福祉法人千葉明德会
 明德土気保育園・明德そでの保育園を運営

6. 学生・生徒・園児の数

(平成30年5月1日現在)

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
千葉明德短期大学	150名	300名	205名	1年	116名
				2年	89名
千葉明德高等学校	400名	1,200名	984名	1年	367名
				2年	330名
				3年	287名
千葉明德中学校	120名	360名	154名	1年	78名
				2年	36名
				3年	40名
千葉明德短期大学 附属幼稚園	(1歳児) 15名	315名	293名	1歳児	15名
	(2歳児) 15名			2歳児	15名
	(3歳児) 95名			3歳児	98名
	(4歳児) 95名			4歳児	83名
	(5歳児) 95名			5歳児	82名
明德本八幡駅保育園		45名	51名	0歳児	12名
				1歳児	18名
				2歳児	21名

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
明德浜野駅保育園		36名	39名	0歳児	6名
				1歳児	7名
				2歳児	8名
				3歳児	7名
				4歳児	5名
				5歳児	6名
明德やちまた こども園		75名	80名	0歳児	5名
				1歳児	10名
				2歳児	11名
				3歳児	17名
				4歳児	15名
				5歳児	22名

7. 役員 (平成30年4月1日現在)

理事長 福中 儀明
副理事長 鈴木 總美
理事 金子 重紀 (千葉明德短期大学学長)
理事 園部 茂 (千葉明德中学校・高等学校校長)
理事 柴田 炤夫
理事 南 金次 (内部監査室長)
理事 高浦 芳一
監事 荒木 由光
監事 神子 信行

8. 教職員の状況 (専任教職員数及び平均年齢) (平成31年3月31日現在)

	人員数	平均年齢
短期大学教員	17名	44.9歳
高等学校教員	56名	45.1歳
中学校教員	14名	40.0歳
幼稚園教員	19名	37.3歳
本八幡駅保育園	16名	35.4歳
浜野駅保育園	9名	36.2歳
やちまたこども園	10名	39.6歳
事務職員	27名	43.1歳
合計	168名	40.2歳

(注) 短期大学学長、高等学校校長は、理事(役員)であることから前項の役員一覧に記載し、上表の数には含めていない。

9. 土地及び建物の状況

(1) 土地の状況 (平成31年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校 地	0	13,005	67,975	4,550	2,871	88,401
その他の土地	472	0	0	0	0	472
合計	472	13,005	67,975	4,550	2,871	88,873

(2) 建物の状況 (平成31年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校 舎	0	3,844	14,984	1,712	705	21,245
附 属 施 設	0	0	3,419	0	0	3,419
その他の建物	0	10	0	0	0	10
合計	0	3,854	18,403	1,712	705	24,674

II. 事業の概要

1. 学園全体の状況

平成30年度学園の財政の状況は、事業活動収入23億5,429万9千円に対し、事業活動支出22億9,871万4千円となり、基本金組入前当年度収支差額はプラス5,558万4千円を計上し、平成24年度から7期連続で収入超過となった。

(詳細は「Ⅲ財務の概要」参照) しかしながら、依然として慢性的な資金不足、及び借入金に依存している状況は変わっていない状況である。

平成30年度に新たに着手した事業としては、学園北方、外房線北側に位置する広大な山林7.5ヘクタールを第二グラウンド用地として整備する事を目的として、組織の立ちあげを行った。地権者との意見調整も順調に進み、次年度以降、千葉明德学園創立100周年記念に向けて大きな柱となる事業が走り出した。その他、寄付金増収計画については、平成31年1月28日付けで、個人の寄付金が税額控除される特定の学校法人に認定され、来年度以降の本格募集に向けて、その基盤を築いた。また、新たな防災体制・危機管理体制の構築を目的として、平成27年度1月に作成した「学校法人千葉明德学園危機管理マニュアル」の見直しを行い、防災体制・危機管理体制の再確認を行った。

各部門における状況は、短期大学においては、学生募集を最大の重点課題とし、改変後のカリキュラム定着を基本方針として運営が行われた。しかしながら、学生募集については、オープンキャンパスの更なる充実、高校訪問での学生獲得に注力したが、結果は実らず、入学希望者の減少、再就職訓練生の減少となり大幅な入学者減となった。千葉明德短期大学は、保育事業4園、姉妹法人2園を支える「総合保育創造組織」の中核となる保育士養成校である。前年比激減の募集結果を踏まえ、競合校との更なる差別化をはかり、次年度、確実な成果が求められる事となった。

一方、経営の中心である高等学校においては、学校改革を更に進化させる第2ステージの2年目に突入し、昨年引き続き様々な取り組みが実践され、ICT教育、進学実績、部活動実績等それぞれに着実な成果が確認できた年であった。中でも「進学校化」を掲

げつつ、多くの生徒が部活動に所属しながら学習に励み、4年制大学への進学率が76.4%の過去最高の実績となった事は、千葉明德高等学校の教育の実践が地域に周知され、まさしく「選ばれる学校」へ着実に前進しているものと思われる。

千葉明德中学校は開校して8年目となり、中高一体となった学校改革、重点目標を明確に打ち出し、様々な取り組みが行われた。その結果、志願者、受験者ともに過去最高となり、次年度80名の入学者を迎え、2年続けて3クラスの体制となった。今後も中・高一貫校として、様々な独自の取組が評価される事が期待できる。

幼稚園においては、平成30年4月幼稚園型こども園として、「山の園舎・森の園舎」2つの園舎で、新たにスタートした。本園の教育理念・保育方針を保護者に理解を求め、共有し、協力のもとに幼稚園と家庭の両面で子どもたちの育ちを支え連携を図ることを、教職員全員で試行錯誤しながら取り組んだ年であった。また、1月に行われた千葉市幼稚園協会主催の公開保育では、園外活動の実践を提案し、他園や自治体職員から支持され、本園で日頃より取り組んでいる理念や方針、実際の保育に確信を持たせた1年であった。

保育事業3園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園においては、各園に定員を超える園児数を確保し、運営方針、保育・教育目標に基づき安定した状況で順調に推移した。各園での保育士のきめ細やかな対応や、時間をかけて計画した行事等が、地域に根ざした取り組みとして着実に評価された。

平成30年度、千葉明德学園は創立93年を迎えた。昨年に引き続き、11月22日(木)に、創立100周年記念事業講演会として、海部陽介氏(国立科学博物館「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」代表)による講演会「日本人はどこから来たのか?—航海者だった祖先たち—」が開催された。講演終了後の質疑応答では、生徒からの質問が絶えず、講演終了後も直接質問をしに行く生徒が殺到する等、例年以上に積極的な姿勢が見られ、大盛況のうちに終了した。

2. 千葉明德短期大学

平成30年度は、ここ数年の課題である学生募集を最重要課題とし、改変したカリキュラムの定着を基本的な方針として運営に取り組んできた。

(1) 学生募集

平成30年度の学生募集については、離職者等再就職訓練生(保育士養成コース)13名を含めても99名の入学者(昨年度より17名減、定員充足率66%)となった。平成29年度の学生募集活動の上向き傾向を維持すべく、オープンキャンパス、高校訪問等の中で、確実に本校の魅力を伝えていくことを目標に行ったが、結果としては大幅な減少となった。オープンキャンパスの参加者数は平成29年度と比較しても減少していないが、その中から本学への入学へ至る学生数が減っている。また、離職者等再就職訓練生の他校の定員増加の影響を受け、本学への志願者減少に至ったことも入学者減の一要因である。

保育養成校志願者の減少傾向の下、競合校との競争も激化している中、基本的な方針を維持しつつ、より確実に1人1人の受験生に本校の魅力を伝え、個々の受験生の希望が本学で実現できることを理解されるよう徹底した募集活動をしていかなければならない。また、平成29年度から導入した個々の受験生の要望に応じた多様な入試方法(奨学生試験(音楽、小論文)、保育体験入試)を広く広報することとともに全体としての広報活動の拡大も必要であると考えている。

(2) 学生支援

①教育と保育実践の連携

“総合保育創造組織”としての附属幼稚園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園及び系列の明德土気保育園、明德そでの保育園は、本学学生の実習先であることはもちろん、ボランティア、有償研修（アルバイト）等、様々な形で保育現場に入り、学びを深めている。また、学生の就職先であるとの観点から本学内での就職説明会を開催し、ともに学び続ける保育創造組織の仲間の育成についても連携を深めてきた。

本年度は、同じ敷地内にある附属幼稚園については、改めてより具体的な連携の在り方の検討を始めることとした。

②教育課程での取り組み

本学の学びの原点である「体験から学ぶ」「学び合う」を実現するとともに、個々の学生に対する支援の充実が本学の教育の中心である。そのために、平成27年度、将来的な Semester 制を導入し、通年科目を半期科目に分割し、教科群を再編成する等のカリキュラム改革を行い、平成28年度入学生より適用・実施し、平成29年度、平成30年度は、その延長上にある。

その結果、1学年においては、前期に半期科目の成績が出たため、各学生の学習状況の把握を行うことが可能となり、個別指導の充実を図ることができた。また、従前から実習指導、ゼミ、現代社会論等、学生と教員の関係を様々な教科で図ってきた。その結果、後述するように就職決定率は96.1%の高率を維持していると考えられる。さらに、専門科目を学ぶ上での基礎としての教養科目の充実を図り、平成29年度から始めた1年次の教養基礎演習、教養総合演習の取り組みを充実させ、学生の学ぶ意欲の向上を図った。

③教育課程外の取り組みの充実

教育課程外での取り組みとして、卒業生が保育現場に勤務しながら、月に2回程学校に戻り、現場での体験を基に教員と学びを深める「保育臨床研修コース」（研修生制度）を開講している（研修生：2名）。土粘土等を携えて保育現場に遊びを届ける「明德あそぼうカー」の取り組みを行ってきたが、平成30年度で一つの区切りとし、今後の展開の検討をしていくこととした。

その他、公開講座「めいトーク」、「教員免許状更新講習」を本年度も継続して行った。

また、千葉市と千葉市内の3短大（千葉経済大学短期大学部、植草学園短期大学、本学）と連携事業（平成27年度からスタート）として、下記の講座を実施した。

ア. 幼稚園教諭免許状・保育士資格の併有促進特例措置に対応した特例講座

- ・保育士資格取得のための特例講座
- ・幼稚園教諭免許状取得のための特例講座

イ. 「千葉市子育て支援員研修」の「基本研修」と「現任研修」の委託を受けて、研修を実施した。

ウ．現場保育士のさらなる学びのためのサバティカル研修を実施した。

今後、潜在保育士研修、キャリアアップ研修についても受託することとなるが、上記連携事業は独立した法人化を目指しており、設立された法人に引き継がれる予定である。

(4) まとめ

以上の取り組みを通して、本学の学びの原点である「体験から学ぶ」「学び合う」の実現を図り、教育内容の充実、本学の学びの魅力を深めてきた。このことは、一人一人の学生に対する丁寧な支援を実践することである。その成果として、就職決定率も96.1%の高率を維持していると考えられる。

平成30年度卒業生(48回生)就職状況

平成31年3月31日現在

卒業者数	85人
就職希望者数	76人
就職決定者数	73人
就職決定率	96.1%

※(就職先内訳)

就職先種別	人数	比率
幼稚園	8人	11.0%
認定こども園	6人	8.2%
保育所	29人	39.7%
福祉施設(保育所を除く)	15人	20.5%
認可外保育施設・学童保育	4人	5.5%
公務員	3人	4.1%
一般企業等	8人	11.0%

学生の就職先についての傾向は、上記の傾向が続いているが、その要因としては、募集数が、保育所が幼稚園の約1.5倍であること、保育所の保育士不足が盛んに言われている中、学生も保育所への就職意識が高いと考えられる。また、2年間の学びの中で、福祉施設への関心が学生の中で強くなる傾向があり、福祉施設の職員不足にも対応して増加傾向を示している。

3. 千葉明德高等学校

平成30年度は、学校改革第2ステージの2年目と位置づけ、1年間の教育活動に取り組んできた。昨年度(平成29年度)は、これまでの進学実績や部活動の成果を踏まえて、①使える英語力の育成、②プレゼンテーション力の育成、③ICTを活用した授業改革、を柱として、学校改革第2ステージのスタート年度と位置づけた。平成30年度は、それをより一層推し進めた年度であり、特に今年度の入学生は、2020年度大学入試改革元年にあたる学年であり、学習指導において探究活動やe-ポートフォリオの導入など大きな変化を求められる年度であった。

そうした中で、大学進学実績では、すべてのコースにおいて、多くの生徒が、部活動との両立を図りながら高い志を持って学習に励み、国公立や有名私大への合格を手に入れることができた。特に私立大学が補助金の関係から募集人員を大幅に絞り込む情勢の中で、本校生徒は善戦したと捉えている。

また、生徒募集においては、学習と部活動を両立するという学校スタイルが定着しつつある中で、一貫コース1クラス、特進コース2クラス、進学コース5クラス、アスリート進学コース3クラス、計11クラス、392名と目標を越える成果を得ることができた。その意味では、ここ数年の中で積み重ねてきた本校の教育実践が広く認められるようになったと言える。

(1) 教育活動への取り組み

- ①授業の理解度を確保して、学習習慣を確立させる仕組みとして、これまでに引き続き、平成30年度も朝学習（主要教科の小テスト）に取り組んだ。目標点数に達しないで不合格になった場合には、放課後に補習が組まれており、その意味で生徒たちは、ふだんの学校生活の中で朝学習がしっかりと根づいていると言える。
- ②受験セミナーについては、夏冬春の長期休業中に設定して、平常授業では十分でない演習などの充実をはかってきた。大学入試にむけては、多くの実践的な問題に取り組むことが不可欠であり、受験セミナーはそのための取り組みであるとともに、生徒には大学受験にむけての意識づけとなるよう指導をおこなった。
- ③勉強合宿については、一貫、特進、HSの各コースで実施してきた。勉強合宿の目標は、個々の生徒に対して自学自習体制の確立をうながすとともに、団体戦で受験に取り組ませるということであり、学年やクラスで受験にむけた雰囲気づくりを醸成する効果が期待された。
- ④2020年度大学入試改革にむけて、英語教育における4技能への対応を進めてきた。具体的には、語学研修プログラム（ブリティッシュヒルズ研修、校内英語集中ゼミ、セブ島短期語学研修、オーストラリア・スプリングフィールド短期交換留学）を実施した。それぞれの研修に多くの生徒が参加を希望し、英語を習得して異文化を理解しようとする積極的な機運がみられた。その効果もあり、英検については、準1級4名、2級26名の取得に至った。
- ⑤生徒指導面では、特別指導対象生徒が減少し、大きな問題行動は見受けられない。ただし、本校ではICTを推進していることから、ICTモラルに関しては、特に注意を喚起するように心がけた。
- ⑥転退学については、減少傾向にあるものの、病気や進路変更等の理由で、やむなく学校を去って行った生徒もいる。学校生活に問題を抱える生徒については、学校カウンセラーとの面接等、早期の対応を実施してきた。
- ⑦ICTについては、教職員がiPadを活用するようになって、まる3年、また生徒がiPadを持つようになって、まる2年が経過した。この間、教員も生徒もiPadの利用を習熟するようになり、またiPadを活用したさまざまな授業実践

を充実させてきたが、まだまだスキルの面で個人差があることは否めない。また生徒の利用も活発になる中で、ICTモラルの問題も取りざたされる。

こうした問題を提起してさらに利用を推進していくために、年に数回の研修と実践報告会を開催した。特に10月12日に開催したICT公開授業では、県内の中高を対象としたが、保護者や学内の教職員を含め、ICT関係の企業や学習塾、県内外の私学関係者に参加していただき、本校のICTのスキルアップにつながった。

(2) 進路指導について

以下は、平成30年度の卒業生287名の進路実績である。

	男子	女子	合計	全体比率
国公立4年制大学	3	1	4	1.4%
私立4年制大学	125	90	215	75.0%
短期大学	0	8	8	2.8%
各種専門学校	14	21	35	12.1%
就職(公務員)	2	1	3	1.0%
就職(企業)	0	1	1	0.3%
その他(浪人・留学等)	17	4	21	7.4%
総合計	161	126	287	100%

(主要大学の合格実績)

千葉大学2名 筑波大学1名 秋田大学1名 首都大学東京1名
 早稲田大学2名 慶應義塾大学1名 上智大学2名 東京理科大学4名
 津田塾大学1名 明治大学9名 青山学院大学6名 立教大学4名
 中央大学8名 法政大学10名 学習院大学2名 聖路加国際大学1名
 日本女子大学1名 東京女子大学1名 学習院女子大学1名 成蹊大学5名
 成城大学2名 明治学院大学4名 獨協大学6名 國學院大学1名
 立命館大学1名 東邦大学9名(内医1名) 芝浦工業大学4名 日本大学18名
 東洋大学29名 駒澤大学9名 専修大学6名 東京都市大学1名
 順天堂大学4名 東京農業大学8名 千葉工業大学35名

昨年に引き続き、都区内の大学が軒並み合格者数を絞り込んでいることから、本校の受験生も全体的に苦戦を強いられるが、そうした情勢の中にあっても、生徒の頑張りや教職員の奮闘により善戦と言える結果を出した。

ここ数年の傾向としては、一貫コースや特進コース以外の進学コースやアスリート進学コースにおいても、自らの目標をしっかりと見定めて、一般受験で難関大学への合格を勝ち取る生徒がはじめてのことである。この流れは、これに続く後輩にも大きな刺激となることだろう。

さらに、こうした動向を踏まえた体制づくりという意味で、平成30年度は自習室の更なる拡張とチューター制の充実を実現することができた。こうした中、4年制大学への現役進学率が76.4%と過去最高に達した。この数字からも、この間進めてきた「進学校」という学校スタイルに着実に近づいてきたと言える。

(3) 部活動（課外活動）と特別活動について

アスリート進学コースを中心とする部活動の主な成績は以下の通りである。

チアリーディング部	関東チアリーディング選手権大会 JAPAN CUP2018 全日本選手権	4位 3位
硬式野球部	夏季千葉県大会 千葉市高校野球大会	ベスト16 優勝
サッカー部男子	関東高校体育大会千葉県予選 千葉県高校総体決勝トーナメント	ベスト8 ベスト8
剣道部	千葉県高等学校総合体育大会 千葉県高等学校新人体育大会	3位 2位
女子柔道部	関東高校体育大会千葉県予選 千葉県高等学校総合体育大会	3位 準優勝
水泳部	千葉県高等学校総合体育大会 インドネシア 2018 アジアパラ	入賞複数 複数メダル(萩原虎太郎)
バトミントン部	関東大会千葉県予選 関東高校選抜大会（ダブルス）	3位 4位（全国選拔出場）

本校では、体育系・文化系含めて部活動に全校生徒の約9割が所属し、日々練習に励んでいる。朝学習・特別セミナーといった課外学習のプログラムがある中でも、それらと両立しながら部活動にも積極的に取り組んでいる様子が見える。

またアスリート進学コースについても、ただ部活動で専門競技にだけ専念していればよいということは認めず、ふだんの学習がしっかりできていることが、部活動を行うための前提であることを生徒には意識づけている。この点は、本校のアスリート進学コースの大きな特徴として今後も全面に打ち出していく。

(4) その他、特徴的な活動について

① 1年総合学習

本校の1年次の総合学習では、一貫コースは「自分を識る学習」、特進コースは、「クエスト・エデュケーション・カップ（QEP）」（クエストカップ実行委員会／教育と探求社）、進学・アスリート進学コースは「キャリア甲子園」（NIKKKI）に、それぞれ取り組んでいる。「自分を識る学習」は、自分について哲学的な考察をするプログラムで、「QEP」と「キャリア甲子園」は、企業からの課題に対して、提案・発表するものである。

これらの取り組みを通して、「個人の主体性」や「協働してテーマに取り組む力」、あるいは「新しい考えを創造する力」を育成し、さらに新学習指導要領で示される「探究型」の学習プログラムに発展させ得るものと期待される。

②学校行事への取り組み

●体育祭

平成30年度は、6月9日（土）に実施した。多くの高校では、競技会形式の体育祭を開催している中で、本校では今年度も生徒の委員会を中心にして、プログラムや競技等の企画を練り上げていった。その大きな特色に、学年縦割りにより4つの色別対抗として、応援団を組織し、応援合戦を取り入れている。

学年ごとの団体競技では、3年生は恒例の民謡を披露し、リレー等の競技種目では、アスリート進学コースの生徒たちを中心に運動能力を発揮し、熱のこもったレースが展開された。その他、部活動対抗リレーでは、部活動ごとに団結を発揮し、盛り上がりを見せた。

●文化祭

平成30年度の文化祭（明高祭）は、9月13日（木）、14日（金）、15日（土）の3日間にわたって実施した。本校では、中高の一体感をだすために、文化祭は中高同日開催とし、特にオープニングは中高合同で開催することで全体を盛り上げるものとなった。また3日間におよぶ開催の中で、実行委員会を中心にした入場門の作成や、中高合同での企画として、クラス旗と広告看板、モザイクアートの作成に取り組むなど、全生徒が参画しての力のこもった内容となった。

クラスの企画としては、毎年、1年はクラスの特徴をうち出した演劇の披露、2年は研修旅行に関連した企画、3年は自由企画として取り組んだ。それぞれのクラスの個性を発揮しつつ、団結力をみせる内容となった。

4. 千葉明德中学校

平成30年度千葉明德中学校・中高一貫コースは、平成23年4月の開校から8年目を迎えた。昨年度3月に2期生が卒業し、その進学実績等の成果の下に、8期生は念願の3クラス体制、78名の新生を迎えて新年度をスタートすることができた。

そうした中、一貫コース3期生の大学進学実績では、千葉大2名、慶応大学、早稲田大学、さらには東邦大学医学部・医学科に合格するなど大きく善戦した。一人一人の生徒の6年間の伸びしろという視点から、6年間を振り返ると、単なる学力だけに止まらない人間力も大きく伸びて巣立っていったと感している。この間進めてきた、一貫コースの特徴でもある探究心やプレゼンテーション力を育てるプログラムが成長への大きな糧になっていると確信している。そして、こうした様々な取り組みを進めてきた結果、31年度生徒募集においても3クラス80名というさらにレベルアップした募集が実現することが出来た。

今後、一貫コースは、開校以来8年が過ぎ、9期生を迎えていく中で、建学の精神、そして新学習指導要領を先取りした一歩先を見据えた本校独自の教育課程・カリキュラムの見直しも視野に入れながら、次の1年への歩みを進めていきたい。

(1) 教育活動と成果について

建学の精神、新学習指導要領を踏まえて、生徒一人一人の豊かな成長を目指し、教育目標である「行動する哲人」を具現化するための教育活動に取り組んできた。

新学習指導要領、高大接続改革に関するセミナー、eポートフォリオに関するセミナーに参加し、多くの情報収集に努め、その結果、高大接続改革を見据えて、中学校高等学校

校のカリキュラム見直しを教務部が中心となり年間を通して検討し、変更、実施してきた。また、外部のアクティブ・ラーニング、ICTの活用に関する研修会や授業実践報告会等への参加を積極的に奨励した。習得した情報、技術、知識を中学校職員会議や教科会での報告を通じて共有した。その結果、校内での研修も活発になり、教員間で相互の授業参観等を行なうなどスキルアップを図れた。また、保護者への授業公開とアンケート調査を行なうことで問題点の点検、改善に努めた。

(2) 募集活動と成果について

平成30年度の学校説明会は、本校だけで行なう従来の説明会に加えて、首都圏模試の実施会場として貸与し、その送り迎えで来校された保護者の控え室で学校説明会を実施した。本校を知るきっかけになり、興味をもってもらい、検討する契機にすることができたことが今年度の出願者数、入学者数に大きく影響した。また、本校で実践している表現力・思考力を培う教育活動と中学入試をリンクさせ、適性検査型入試（思考力型入試）やルーブリック評価型入試（表現力型入試）を取り入れるなど入試制度改革を行ない、その出題内容の精査とその方向性の周知を企図した。その結果として、期待した入学者80名（昨年比103%）を確保することができた。また、志願者数に関しても、受験者数405名（昨年比121%）と開校以来最も多い人数となった。

(3) その他の取り組みとその成果について

中学生全員がiPadをもち、生活の一部として使用している。iPadを用いた教育活動の実践として、あらゆる配付物を紙からデジタル化し、iPadでの共有とした。その結果、配布時間の短縮やファイルの整理が当然になり、探す時間の無駄を省くことができた。また、授業内での発表や総合学習での意見交換など、時間を「効率的」に使えるようになり、また時間短縮に伴い内容を「効果的」に習得できるようになった。中3の修学旅行では毎晩、その日の振り返りとしてiPadを用いて班ごとの発表を行なったが、特に「明日香村を世界遺産にしよう」というテーマでCM作りに短時間でチャレンジできたことはICT教育特有の取り組みであった。また、生徒、保護者との連絡ツールとして、教育プラットフォーム（「Google form」、「classi」や「FE」等のコミュニケーションツール）を導入した。それにより、学年通信や諸連絡、年間行事計画などの配布物を保護者にダイレクトに送れることで確実に連絡ができるようになり、保護者も配布物の保管がしやすくなった。

5. 千葉明德短期大学附属幼稚園

(1) 運営方針に対する成果について

平成30年度は、「園庭環境の充実」「長時間の保育内容の研究」「未満児保育の研究」を課題に取り組んできた。

「園庭環境の充実」については、園内研修として講師を招いて、明德の森の50年の歴史を振り返りながら、恵まれた環境の中での園児の遊びやその中での育ちを確認した。平成30年度から幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針の3法令が施行されたが、内容は本園の目指していた「遊びと生活を通じて子どもたちが自らの意志と力で学び、育つ」保育理念とほぼ同様の内容と思われる。人間形成の基礎となる幼児期にさまざまな事柄に触れることを通じて得る体験から自身の中に湧き起こる興味や関心をベースに、子どもたちは自分で考え、行動できる人間へと育つ

ていく。これまでの本園の教育理念を基に豊かな自然に囲まれた環境で、保育の実践をおこなって行く中で、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性」の力を育てる。その園外活動の実践を11月の千葉市幼稚園協会主催の公開保育に提案し、他園の教職員や自治体職員からも「明德の保育の良さ」を評価する声が上がられた。

(2) 教育目標と成果について

他園にはない、本園の特色（強み）の一つに豊かな自然環境が挙げられる。身近な環境から自然が失われている現代において、明德の豊かな自然環境で過ごす生活は、他では得難い貴重な経験である。この豊かな環境の中で子どもたちはさまざまな刺激的な体験を積み重ね、成長する。この豊かな教育環境の一層の充実が、保育の充実へとつながり、園児募集にも好影響をもたらすことにもなる。3歳未満児の園舎の屋外環境も、古墳の自然を大いに生かして整えてきた。子どもたちは坂を上り下りして遊ぶ中でしっかり立って歩いて、しなやかな体の使い方ができるようになってきた。また、安全な保育の点では、アレルギー児が多くなってきたことと、前年度の怪我や事故を踏まえて、安全対策を考えて救急救護の研修を実施した。また、アレルギー児については、緊急時に対応できるようにエピペンを6本預かったが、実際に使用することはなかった。

(3) 在園児数について

近年、入園者が減少し続けていた中で、平成30年度に幼稚園型認定こども園に移行した。新入園児は、年少児91名、年中児6名、年長児1名を迎え、他に新たに、1歳児15名と2歳児15名の3号認定児も入園し、前年度より22名増加し全体数が292名でこども園が始まった。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数	292	293	292	292	292	293	293	292	292	291	292	292

【年齢別在籍数】/3月

年 齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在 籍 数	15	15	97	83	82

【職員構成】

職種	園長	副園長	教諭	パート 教諭	嘱託 事務	パート 職員	看護師 パート	栄養士
人数	1	1	19(3)	16	1	2	1	2

(3月時：教諭2名育休、嘱託教諭1名病休中)

(4) 新たに実施した取り組みと成果について

こども園への移行ということでは、早朝から夕刻までの長時間の保育、また、夏期、冬期、春期の休業中の保育を実施してきた。その中で1号認定児の延長保育等での課題が見つかり、その時々で対応をしてきた。

「短期大学附属」であることを踏まえ、短大と連携を図り、物的・人的資源の両面から

の活用と、相乗効果による教育実践の向上を図ってきた。これとあわせて、認定こども園に移行したことから幼稚園内の資源に限らず、明德の「総合保育創造組織」の一員として、短大をはじめ、保育園（土気、そでの、浜野駅、本八幡駅の各保育園）、こども園（やちまたこども園）の関係園との連携を図り、学園全体を視野に入れた保育の取り組みを目指してきた。3歳未満児保育の園見学としての保育実践交流では、2園に保育教諭を送り、2日間に渡って保育交流ができた。未満児保育の経験の少ない保育教諭の中での、他園との保育交流は、自園の保育実践に直ぐに役立てることができて良かった。また、土気保育園とのドッジボール大会では、他の園の子どもたちの様子がわかり、保育士同士のいい交流ができた。今後も続けていく事とした。他にも、近隣の保育園と園庭等での交流をしてきたいと思っている。

6月23日には新園舎のお披露目及び50周年記念冊子完成会として記念式典を実施した。1967年に開園した本園は50周年を迎え、創立からの歴史を関係者、卒園児、在園児、保護者とともに振り返り、記念小冊子を発行した。その完成会と新園舎のお披露目会として、アフタヌーンティーパーティーを行い、保護者や在園児、卒園児をはじめとする、新園舎設置に携わった関係者に列席していただき盛大に執り行うことができた。

6. 明德本八幡駅保育園

(1) 保育園運営方針に対する成果について

①園児数の推移は育児休業を延長する事による辞退、転園という実態はあったが、毎月の募集活動により園児数の増加を図ることで、52人が在籍する運営をすることができた。

*月別在籍数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	49	51	51	50	50	50	50	50	51	52	52	52

*年齢別在籍数/3月

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	合計
定数	9	18	18	45
在籍	14	18	20	52

*職員構成表/3月

職種	園長	主任	副主任	主任看護師	保育士	栄養士
人数	1	1	1	1	11	1
職種	パート(常)調理師	パート(非)調理員	パート(常)保育士	パート(非)保育士	保育補助員	
人数	1	3	4(1)	6	2	

※()内は育児休業中職員含

運営面における、補助金交付対象となる特別保育事業、一時預かり事業、体調不良児対応型保育事業を例年通り実施した。

特別保育事業と保育園見学を一体化した形は定着してきた。しかし、一時預かり事業においては、これまで待機児童の受け皿となっていたが、近隣に小規模保育園が増加した影響を受け、本事業の利用者は延べ利用数208名と前年度に引き続き少ない状況であった。

(2) 保育・教育目標と成果について

- ① 1・2歳児混合クラスにおける小グループ制保育が定着したこともあり、0歳児クラスからの移行時に保護者が戸惑う様子もなく年度のスタートができたうえに、年齢以上の会話力、表現力、模倣力といった子どもの成長を感じていると卒園保護者の声が聞かれている状況である。
- ② 散歩時に避難車を使わずに出かけることも定着し、子ども達の歩行距離も延び、一定の時間で遠距離を歩けるようになってきている。大人の足で15分かかる1km先の公園もほどなく歩いて行けるようになってきている。歩行が安定している証であり、転んでけがをする事も少ない年であった。
- ③ 30年度に向け購入した背もたれのない椅子は、体幹がしっかりしていなければ座っていることが難しいが、姿勢正しく座ることの習慣に繋がったといえる。

(3) 募集活動と成果について

- ① 地域子育て支援「ポップスマイル」の周知度が高まってきたところへ新たにQRコードをポスターに入れたことは、現代社会の携帯やタブレット端末などが身近な保護者には、情報を容易に目にする事ができ、参加予定も立てやすかった様で、参加者の増加に繋がった。
- ② ポスターをシャポアの授乳室に掲示してもらったところ、ポップスマイルの情報をどこで知ったかの問いに、「授乳室で見た」という回答も多く聞かれた。
- ③ 「ポップスマイル」へ参加している方々の育児の悩みや質問事項を、質問者名と共に記録に残しておき、その後経過はどうかを聞くようにしたことで、「覚えていてくれたんですね!!」と喜びの声と共に園への信頼に繋がった。

*保育園見学者数、合計（ ）内は入園者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度		13	18	8		7	24	28	17	12	4	3	134 (12)

(4) 新たに実施した取り組みとその成果について

3歳未満児の保育園では避けることのできない転園があるため、一つの対応策として試みてきた保育園交流が功を成した年であった。

- ① 保育園交流…どろんこ保育園、e-こども園との交流は定例のものとなりつつある。今年度は行事とした子どもの楽しみだけではなく、保護者の転園へ向けた取り組みのきっかけにもなっている。(どろんこ保育園は募集7人中、6人が明德本八幡駅保育園園児であった)

(5) その他

AEDの使用期限が切れるため、安全に園児の救命ができるよう新しいものへと入れ替えをした。この機会に全職員が、使用方法の講習を受けるという園内研修は貴重な時間となった。

7. 明徳浜野駅保育園

(1) 保育園の運営方針に対する成果について

平成30年度、第二子の途中入園を希望する家庭が3組あったことから、当初の園児数38名を抑えスタートした。数名の出入りがあったが、年間平均39.6人で推移した。年明けより0歳児の高月齢児3名を1歳児クラスに移行し、第二子の入園を受け入れたことで、年度末には42名となり、安定した運営をすることができた。

*月別在籍数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	38	39	40	40	40	38	39	39	39	41	41	42

*年齢別在籍数(3月)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	9	7	8	6	6	6

*職員構成

職種	園長	主任保育士	保育士	主任栄養士	看護師	調理師	調理員
人数	1	1	16(2)	1	1	1	1

※()内は育児休業中職員

(2) 保育目標と成果について

職員の入れ替わりも殆どなく、保育及び行事等はリーダーや係を中心にスムーズに行なわれている。「子どもを真ん中に」という本園の保育の基本を大切にするために、保育者の態度・言動を見直し、話し合い、肯定的な言葉がけや、関わりをするよう、園内研修等で周知してきた。その結果、保育者が大きな声を出すこともなく、子どもの気持ちを受け止め、肯定的な関わりを持つことができるようになり、子ども達も受容されている安心感と「できた」という達成感を毎日の繰り返しの中で感じる能够做到ている。また、保育者は日々自分を振り返り、気づいたことを明日への保育につなげ、保育の充実を図っている。

(3) 募集活動と成果について

見学者や入園希望の相談には丁寧な対応を心がけることで、第一希望での入園申請へと繋がっている。

見学の際に子どもを保育園に預けるといふことの大変さや、準備しておくといふこと等、具体例をあげて話すことで、入園説明会の時には入園後の予定等をスムーズに進めることができている。

平成30年度は、在園児の兄弟入園希望者が多く、当初の園児数を抑える等して希望者全員が入園できるよう配慮してきた。それにより、保護者は安心して仕事に復帰することができた。しかし次年度の1歳児の定員を大幅に超えたことから、新規入園児を受け入れることができず、多くの第一希望申請者が他園に割り振られることとなってしまった。0歳児については、全て第一希望者で、4月当初より定員を満了してのスタートとなった。

(4) 新たに行なった取り組み等とその成果について

①療育相談支援・専門機関との連携

必要に応じて千葉市こども家庭課・保健センター、千葉市児童相談所・千葉市療育センター・千葉市幼保運営課等の専門機関と密に連絡を取り合い、子どもの最善の利益を保障できるよう適切な保育の実現を心がけてきた。

子育てや発達等に不安を感じている保護者には、個人面談や日々のかかわりの中で傾聴と共感を基本にしながら、不安を軽減できるようなアドバイスやサポートを行ない支援に努めている。

②食育計画の見直し

食育基本法と食品衛生法が改正になったことを受け、本園の食育計画及び食事に関するめやすの見直しを図ってきた。保育園の食事とはどのような意味があるのか、楽しく食事をすることとはどういうことなのか、という基本に立ち返り全職員で意見を出し合い、より深い部分での見直しを行なった。それにより、今まで以上に子どもの発達に合わせた環境や適切なかかわりができるよう、保育者の意識が高まっている。

(5) その他

* 10周年に向けた取り組み

開園10周年を迎えるにあたり、園内の行事等にて音響を使用する際の設備を整えることを当初予算の段階で計画した。年度の後半でさくら組に音響設備工事を施工し、卒園式やお別れ会で使用することができた。今後の保育に積極的に利用し活かしていく予定である。

8. 明德やちまたこども園

(1) 運営方針に関する成果について

平成30年度は、収支が開園以来初めて黒字となり、将来の施設更新の為の積み立てを2019年度から行えるようになった。

人口の減少が続いている八街市に存続し続けるためには、地域の0, 1, 2歳の需要を受け止める必要がある。しかし、収入増に結びつく園児年齢、0, 1歳保育室の床面積が小さいため対応出来ずにいる。

又、昨年度からの課題である1号こどもの定員割れを解決すべく、1号こども、2号こどもの定員割合を変更した。

子育て支援の「たんぽぽ」「一時保育」を丁寧に取り組む事が子どもの入園に結びついているため、これらのプログラムの一層の充実を図っていきたい。

また、2号こどもの入園に関しては、市との連絡を密に行って行きたい。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	78	80	79	80	80	80	80	80	79	79	79	79

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	5	10	10	18	15	21

【職員構成/3月】

職種	園長	主幹保育 教 諭	保育教諭 (常勤)	保育教諭 (嘱託)	保育教諭 (パート)	栄養士	調理師	看護師	事務
人数	1	2	8	3	8	1	1	1	1

(2) 保育目標と成果について

保育目標を具体化したため、保育のイメージが保育者一人一人により具体的に描けるようになった。このことから、指導計画、日案などの記述がより子どもの姿を捉えられようになり、日々の保育が少しずつ充実してきている。

(3) 募集活動と成果について

1号の入園児について、3歳児は30年度5名、31年度8名、4歳児は30年度5名、31年度7名と人数は増え定員の5名を超えている。子育て支援、一時保育のプログラムの充実、地域とのコラボする八街マルシェなどの取り組み、ポスターなどを通しこれからもコンスタントに人員を募集出来るように活動を行っていきたい。ホームページは、年間で15万超のアクセスがある。こまめに内容を更新しているが、これも大きな力となっていると考える。

(4) 保育活動における新たな取り組みについて

寿命がきつつあるソメイヨシノの植え替えも視野に入れて、ソメイヨシノ、枝垂桜の植樹を行い、また園庭環境の再構成を以下のとおり、重点的に行った。

- ①用具小屋をそら組とふじ組の間、足洗い場の前に移設し保育(遊び)の拠点とした。
- ②乳児用の園庭を砂場、泥場を中心に据えて、ハンモックブランコを新設し、丸太のベンチを乳児用に低くして砂場近くに移設した。
- ③木製の砦を前年に引き継ぎ一台購入し、間を平均台で繋ぎ幼児の遊びの場とした。

又、東側の畑を3倍ほどに広げ、現在子ども達と土づくりをしている。

園庭の遊具を吟味したことで子ども達の遊び空間が子どもの思いと合致し子ども達の遊びがダイナミックになり、集中して行われるようになった。

また園庭の浸水の改善については、土を入れるなどの対処は行ったが根本的な改善になっていないので、引き続き対応していききたい。

Ⅲ. 財務の概要

1. 事業活動収支の推移

(単位：千円)

		科目/年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
教育活動収支	収事 入業 の活 部動	学生生徒等納付金	971,065	941,520	943,938	949,118	
		手数料	27,201	26,887	31,914	33,433	
		寄付金	8,405	7,200	10,287	14,580	
		経常費等補助金	867,708	862,267	933,936	1,088,950	
		付随事業収入	46,375	68,583	122,747	136,926	
		雑収入	121,467	179,844	114,689	113,964	
		教育活動収入計	2,042,221	2,086,300	2,157,512	2,336,971	
	支事 出業 の活 部動	人件費	1,442,258	1,541,964	1,513,378	1,623,874	
		教育研究経費	344,302	345,314	370,801	417,598	
		管理経費	176,210	167,136	226,378	222,675	
		徴収不能額等	0	275	0	0	
		教育活動支出計	1,962,770	2,054,689	2,110,557	2,264,147	
	教育活動収支差額		79,450	31,611	46,955	72,824	
	教育活動外収支	収事 入業 の活 部動	受取利息配当金	117	50	411	521
							0
教育活動外収入計			117	50	411	521	
支事 出業 の活 部動		借入金等利息	24,139	21,363	19,113	18,790	
						0	
		教育活動外支出計	24,139	21,363	19,113	18,789	
教育活動外収支差額		△ 24,023	△ 21,313	△ 18,702	△ 18,268		
経常収支差額		55,428	10,298	28,253	54,555		
特別収支	収事 入業 の活 部動	資産売却差額	0	0	50	0	
		その他の特別収入	11,430	28,192	59,733	16,807	
		特別収入計	11,430	28,192	59,783	16,807	
	支事 出業 の活 部動	資産処分差額	1	2,279	222	2,105	
		その他の特別支出	13,672	13,672	13,672	13,672	
		特別支出計	13,673	15,951	13,893	15,777	
特別収支差額		△ 2,243	12,241	45,890	1,030		
[予備費]							
基本金組入前当年度収支差額		53,185	22,539	74,143	55,585		
基本金組入額合計		△ 213,271	△ 180,603	△ 86,039	△ 193,501		
当年度収支差額		△ 160,087	△ 158,065	△ 11,896	△ 137,916		
前年度繰越収支差額		△ 3,595,513	△ 3,755,599	△ 3,896,193	△ 3,908,089		
基本金取崩額		0	17,470	0	0		
翌年度繰越収支差額		△ 3,755,599	△ 3,896,193	△ 3,908,089	△ 4,046,005		
事業活動収入計		2,053,768	2,114,542	2,217,706	2,354,299		
事業活動支出計		2,000,583	2,092,003	2,143,563	2,298,714		

(注) 金額は、すべての項目について千円未満は四捨五入で記載しており、合計額が一致しない場合もある。

平成30年度決算の基本金組入前当年度収支差額は、事業活動収入23億5,429万9千円に対し、事業活動支出は、22億9,871万4千円となり、5,558万5千円の収入超過となった。また、基本金組入後の事業活動収入は、21億6,079万8千円となり、事業活動支出との差額である当年度収支差額は、1億3,791万6千円の支出超過となった。基本金組入前当年度収支差額は、平成24年度から7期連続の収入超過となった。

2. 施設・設備への投資額の推移

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
施設関係支出	44,827	93,773	230,437	118,975
設備関係支出	15,204	12,511	24,401	16,497
合計	60,031	106,284	254,838	135,472

平成30年度の主な施設関係支出は、建物支出においては、高等学校1号館における北側外壁改修・生徒用玄関の自動ドア設置工事、高等学校2号館では、普通教室棟の空調機更新工事、音楽室床改修、ICT設備計画の4期工事として、特別教室等のWi-Fi環境整備工事等を実施した。その他、短期大学においては、本館・別館の空調機器更新工事、LED照明への交換工事等を実施した。構築物支出においては、高等学校硬式テニスコートナイター照明設置工事、野球場への照明増設等を実施し、教育環境の整備を行った。設備関係支出は、教育研究用機器備品として、高等学校理科備品として力学実験フルシステム、グラウンド用AED機器の設置、特進クラス自習室・第2自習室のデスク及び椅子等の更新を行い教育環境の充実をはかった。その他幼稚園では、2つの園舎に新たにAED機器2台の設置を行った。管理用機器備品として、浜野駅保育園さくら組に新たに音響設備一式を設置した。

3. 借入金の推移

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
長期借入金	503,101	458,427	510,160	508,257
短期借入金	485,099	450,174	400,972	417,803
合計	988,200	908,601	911,132	926,060

(注) 各年度とも3月31日現在の残高を記載している。

長期借入金は、前期末残高5億1,016万円に対し、新規借入9,590万円、期中返済金9,780万3千円を計上し、期末残高5億825万7千円となり、前年比190万3千円の減少となった。短期借入金の期中運転資金は、借入6億7,000万円に対して、返済6億7,000万円であり、期中運転資金の借入残高はかわらず、その結果、返済期限が1年以内の長期借入金の減少を含めて、長期及び短期の借金残高合計は、前年比1,492万8千円増加し、9億2,606万円となった。

以上

